

コースコード：DO-SREF

税込価格：154,000円 (税抜価格：140,000円)

日数：2日間

## ここに注目!!

サービスの信頼性を向上させるための、自動化、作業方法、組織の再編成などを組み合わせたさまざまな実践方法を紹介します。  
大規模なサービスの可用性を重視する方に適しています。

本トレーニングに関連する資格を取得された方にお話を伺いました。

以下から合格体験記をご覧ください。

[SRE Foundation 合格体験記 1](#)

[SRE Foundation 合格体験記 2](#)

## 受講対象者

このトレーニングはこのような方におすすめです。

- ・信頼性向上への取り組みを始めた方、または主導している方
- ・現代のITリーダーシップや組織変革のアプローチに興味のある方

## 前提条件/前提知識

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

- ・一般的なDevOpsの定義と原則に関する基本的な知識があること

## 目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

以下トピックへの実践的な理解が含まれています。

- ・SREの歴史とGoogleでの登場
- ・SREとDevOpsやその他の一般的なフレームワークとの相互関係
- ・SREの基本理念
- ・サービスレベル目標(SLO)とそのユーザーフォーカス
- ・サービスレベルインジケータ(SLI)と現代のモニタリング事情
- ・エラーバジェットとそれに伴うエラーバジェットポリシー
- ・ Toilと組織の生産性への影響
- ・ Toilをなくすためのいくつかの実践的なステップ
- ・サービスの健全性を示すものとしての観測性
- ・SREツール、自動化技術、セキュリティの重要性
- ・アンチフラジリティ、失敗と失敗のテストに対する私たちのアプローチ
- ・SRE導入がもたらす組織的なインパクト

## アウトライン



## SREの原則と実践

SREとは？

SREとDevOps：その違いとは？

SREの原則と実践

## サービスレベル目標とエラーバジェット

サービスレベル目標(SLO: Service Level Objective)

エラーバジェット

エラーバジェットポリシー

## トイルの削減

トイルとは？

なぜトイルは悪いことなのか

トイルをどうにかする

## モニタリングとサービスレベル指標

サービスレベル指標(SLI: Service Level Indicators)

モニタリング

オブザーバビリティ

## SRE ツールと自動化

自動化の定義

自動化の焦点

自動化の種類の間層

セキュリティの自動化



自動化ツール

プログレッシブデプロイメント

AIOps

バリューストリームマネジメントプラットフォーム

プラットフォームエンジニアリング

生成AI

## アンチフラジリティと失敗からの学習

失敗から学ぶ理由

アンチフラジリティのメリット

組織のバランスを変える

避難訓練

カオスエンジニアリング

## SRE の組織的影響

組織がSREを導入する理由

SRE導入のパターン

SREの業務内容

持続可能なインシデント対応

非難なしのポストモーテム

SREとスケール

## SREとその他のフレームワーク、将来について

SREとその他のフレームワーク

SREの進化



その他の情報源

試験の準備

試験条件、問題の重み付け、用語のリスト

サンプル試験レビュー